

# 仙台港 津波1.4メートル

## 大震災後高さ最大

## 東北など1万人避難



多賀城市中心部を流れる砂押川では津波による逆流が確認された=22日午前8時55分ごろ、JR多賀城駅前

22日午前5時59分ごろ、福島、茨城、栃木の3県で震度5弱、仙台など宮城県で震度4の地震があった。仙台市宮城野区の仙台港では午前8時3分ごろ、東日本大震災以降で最大となる1.40メートルの津波を観測。青森県から千葉県にかけての沿岸部では約1万人が高台などに避難した。この地震で東京電力福島第2原発（福島県富岡町、楢葉町）は3号機の使用済み燃料プールの冷却設備が一時停止した。

### 相馬90センチ 石巻80センチ

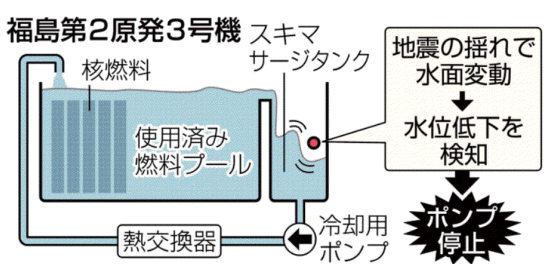
気象庁によると、震源地は福島県沖で、震源の深さは約25キロ。地震の規模はマグニチュード(M)7.4と推定され、東日本大震災の余震とみられる。その後、震度1〜4の地震が断続的に続いた。

### 福島第2原発3号機

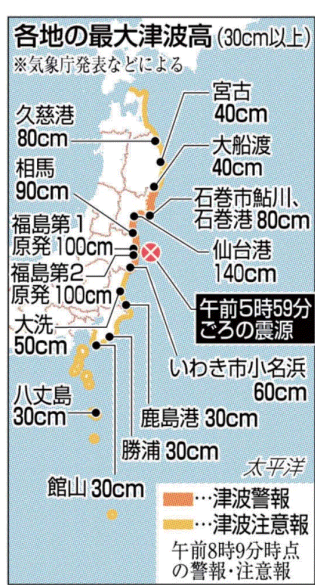
## 燃料冷却一時停止

東京電力によると、22日午前6時10分ごろ、福島第2原発（福島県富岡町、楢葉町）3号機で、使用済み燃料プールの冷却水を循環させるポンプが自動停止した。放射性物質の漏えいや水漏れなど設備に異常はなく、約1時間40分後に冷却を再開した。3号機のプールには2544体の燃料が保管されている。隣接する「スキマサージタンク」の水が同日早朝の地震で波打ち、水位低下を検知する警報が鳴り、自動停止したとみられる。冷却再開時のプール温度は29.5度で、停止時より0.2度上昇した。東電は「運転上の制限値(65度)に達するまで、7日間の余裕があった」と説明した。東電によると、第2原発

## 福島沖M7.4 震度5弱



で午前6時31分、第1原発（同県大熊町、双葉町）で同38分にそれぞれ1.00メートルの津波を観測した。第1原発では安全確認のため、高濃度汚染水の処理設備を一時停止した。第2原発では構内の一部で停電が発生し、2台ある放射性物質の飛散を感じるダストモニターのうち1台の稼働が一時止まった。東電は地震発生後、第1原発で行われていた建屋の除染やタンクの増設工事などを全て中断。構内点検の結果、海水放射線モニターの停止といった不具合のほかは、主要設備に異常は見つからなかった。敷地内には地震発生当時、東電社員約100人と協力会社の社員約800人がいた。



マグニチュードはM7.3の阪神大震災や熊本地震を上回った。仙台管区気象台の川上徹人地震情報官は「今後1週間は、最大で震度5弱程度の余震に注意してほしい」と呼び掛けた。気象庁は宮城、福島両県に津波警報、青森、岩手、茨城、千葉の各県に津波注意報を出して警戒を呼び掛けた。警報、注意報は午後1時前に全て解除された。観測された津波は、福島第1原発（福島県大熊町、双葉町）と第2原発で1.00メートル、相馬市で90センチ、石巻市鮎川と岩手県の久慈港で80センチなど。多賀城市の砂押川では逆さる津波を確認。宮城県によると、石巻、東松島市と七ヶ浜町で小型漁船計20隻が転覆した。消防庁によると、宮城、福島、千葉の3県と東京都内で計14人がけがをした。いわき市錦町の化学メーカーの研究施設では小規模な火災が発生した。東北、上越、山形、北陸、東海道の各新幹線は一時運転を見合わせた。仙台空港の発着便は計37便が欠航した。宮城、福島の両県では計250校以上の小中高校などが臨時休校した。電力各社によると、福島第1原発に新たな異常は見つかっていない。青森県の東通原発、宮城県の女川原発も異常は確認されていない。